

埼玉育ちのグローバル人

Vamos

第3回 「日本にある小さな外国 “北海道中富良野町”」

令和元年度「埼玉発世界行き」奨学生 小山 桃果さん



■日本の小さな外国

日本の外国と聞いてどこを思い浮かべますか？私が住んでいる中富良野町は、富良野市の隣にある町です。約 4,700 人が住む小さな中富良野町には、一年を通じて感動する景色がギュッと詰まっています。それらの景色は、まるで外国みたいです。例えば、盛り上がった丘や、芝生に気持ちよく寝転ぶ馬、どこまでも続く白樺の列、金色の小麦畑、迫力のある山並み、色鮮やかなお花畑・・・これらの景色は、季節が変わればガラッと変身し、一年中住む人を楽しませてくれます。この町は盆地のため、山や森に囲まれています。引っ越してから少しずつ外国の友達も増えました。現在担当しているお仕事は外国人観光客の案内なので英語を使います。このように、この町の景色や仕事が「外国に居るような環境」なので、「小さな外国」と名付けました。

この町との出会いは就職がきっかけでした。外国みたいな町で、世界中の人と繋がる仕事ができることにワクワクし、引っ越しを決めました。これまで一度も訪れたことはなく、富良野エリアについて全く知りませんでした。就職を決める前、初めて見たこの町の写真は、迫力のある山並みと広い田園とラベンダーが見える展望台の写真（下にあって一番右の写真）でした。「こんな素敵な町に住めたら楽しいはず」と、その時思ったのですが、本当に楽しいです。知らない町に引っ越して生活する・・・まるで外国に行くみたいな気持ちでした。



〈写真上から〉
小麦畑と十勝岳連邦
芝生で過ごす馬
中富良野町の展望台

■良い香りがする

ラベンダーが有名な中富良野町。魅力が沢山あることで知られる北海道の中でも、有名な観光地です。歩いているとラベンダーの香りが漂います。北海道のガイドブックの表紙は、この町の観光地のファーム富田の彩りの畑や、ラベンダー畑で飾られていることが多いです。広い園内で、山と田園と空を見ながら、季節のラベンダーとお花を楽しめます。この町の夏は、毎年多くの観光客でにぎわっています。コロナウイルス流行前は、年間100万人を超える観光客が来ていました。

中富良野町は北海道のほぼ真ん中にあります。札幌からは車で2時間ほどです。観光の他には、農業が盛んです。じゃがいも、トマト、玉ねぎ、アスパラガス、メロン、スイカ、ハスカップ、ブルーベリーと、まだまだあります。季節の美味しい農作物が揃っています。「収穫できない野菜は無い」と、言われているほどです。



〈写真上から〉
ファーム富田
ラベンダー畑での1枚



雪解け後の田園

■観光客みたいに暮らしてみる

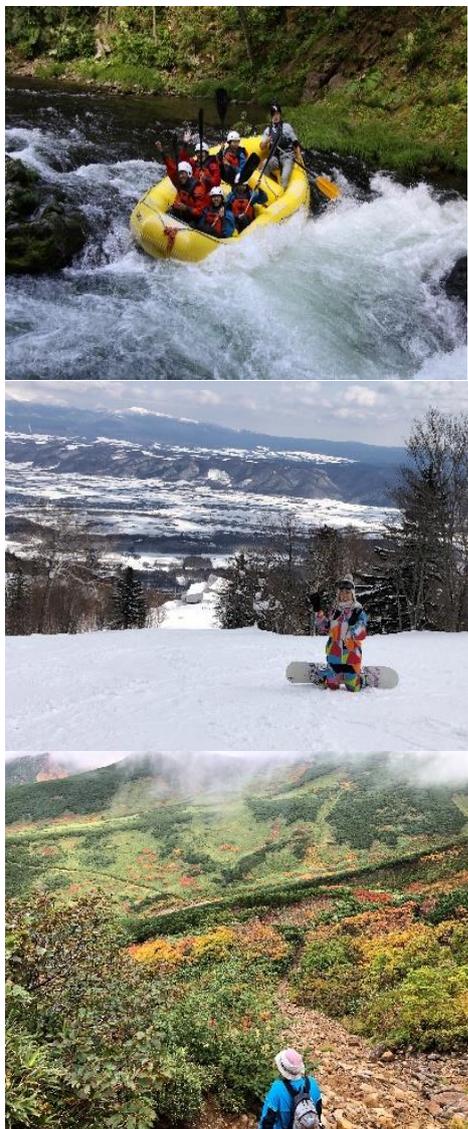
実は、引っ越してからずっと北海道に住んでいる実感がありません。ずっと観光客みたいな気分で暮らしています。こんな暮らし方は初めてです。仕事終わりに、ゆっくりとラベンダー園やお花畑を散歩したり、美瑛の青い池に行ったり、満天の星を眺めたり、週末はラベンダーやハスカップの摘み取りをしたり、道内をドライブしたりします。観光客のように楽しめてしまうのは、富良野・美瑛エリアが魅力的なことと、北海道出身でない私にとって目に映るものが全て新鮮だからです。

■ショッピングモールに行かなくなった

人口そして建物が少ないこの町には、ほどよい静かさがあります。都会でもなく田舎でもなくその中間です。この町の魅力は、郵便局、スーパー、コンビニ、病院など生活に必要な最低限なものは揃いつつも、豊かな自然の中でのびのび暮らせることです。

もともと自然の中で過ごすのは大好きですが、北海道に住み必然的に自然の中で楽しむ時間が増えました。夏は川で泳いだり、ラフティングしたり、秋は登山やサイクリングをしたり、冬はスノーボードやスキーをしています。埼玉に住んでいた時は、大宮駅にふらっと寄って、よく買い物していましたが、現在は自然の中で過ごす時間に満たされて、物欲が無くなりました。時間があっという間に過ぎていきます。一年をグルグル巡る「季節ごとの楽しさ」が、時間を早く感じさせる理由です。四季

のアクティビティと、四季の食べ物と、四季の景色・・・どの季節も「その季節ならではの楽しみ」があります。北海道に住んだら、きっとどの季節も好きになります。



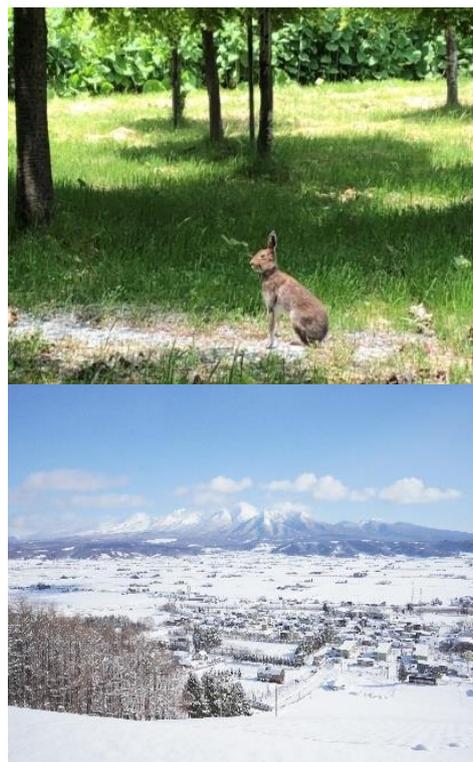
<写真上から>
透き通る川でラフティング
迫力ある富良野スキー場からの眺め
紅葉の時期に富良野岳に登山

■ウサギに出会う

北海道に来て一番驚いたのは、野ウサギに出会ったことかもしれません。エゾリス、キツネ、シカ、タヌキ・・・北海道に住んでいると、よく野生動物に出会います。それだけ豊かな自然がある証拠です。のびのびと暮らしている動物たちですが、北海道の冬はとても厳しいです。この町は道内でも積

雪量が多く、冬はマイナス 25～30 度になることもあります。そんな厳しい寒さを、動物や植物たちが必死に生き延びていて、生き物の逞しさに何度も感動させられました。

「冬の生活は大変？」と、よく聞かれます。私は北海道で生活することが初めてです。車がスリップしたり、雪が積もりすぎて車のドアが開かなくなったり、出かける前に除雪に 40 分（笑）と、大変なこともありました。しかし、大変だと思ったことより、感動したことの方が多いのが本音です。それには私自身も驚いています。緑溢れた町を一面スッポリ覆う真っ白な雪、雪化粧の白樺、キラキラ降る雪・・・そんな景色の中をドライブしたり、スキーしたり、散歩すると、冬が好きになります。初めて越した今年の北海道の冬、「天国」みたいな景色に何度も出会いました。



<写真上から>
南富良野で出会ったウサギ
中富良野町の冬の町



天国みたいな幻想的な景色

■外国人と繋がっている今

夏の期間、私は観光案内業務を担当しています。今年の夏も沢山の出会いがありました。中国、韓国、アメリカ、イギリス、スペイン、ポルトガル、フィリピン、ベトナム・・・日本に居ながらも、外国の人と繋がれる今の仕事が好きです。先日は、初めてスペイン人観光客に会いました。久しぶりに、町でスペイン語を話し嬉しくなりました。中富良野町は、英語圏、アジア圏の観光客は多いのですが、スペイン語圏はほとんど居ません。この町の魅力は、夏だけでなく一年を通じてありますが、知られていないのが現状です。車を持っていない人でも楽しめる穴場なスポット、春や秋や冬の楽しみ方などを、日本語と英語とスペイン語で紹介するなど、小さなことからコツコツと取り組んで、この町の魅力をより多くの人に伝えていきたいです。

今回が最後のエッセイとなりますが、給付奨学金を得て留学できたことに感謝しています。本当にありがとうございます。英語とスペイン語を勉強していなかったら、出会えていない人たちが沢山います。高校や大学のスペイン語の先生や交換留学生、スペイン留学中に仲良くなったスペイン、メキシコ、アルゼンチン、チリ、フランス、イタリア、ドイツ、台湾・・・の人たち。そして、今、中富良野という町で観光案内をして、日本に居ながらも世界中の人に出会っています。様々な国籍の人たちとの出会いは、私の考え方に大きく影響しています。不思議と、「その人と出会う理由」「出会

うべきタイミング」があるように感じています。今中富良野町で暮らしているのは、昨年まで予期していなかったことです。これまでの出会いがあって、「今」ここに居ます。これからもどんな出会いがあるのかワクワクしています。

エッセイを読んでいる方へ。読者の中には、留学を考えている方もいると思います。今、留学すること自体が難しい時期ですが、外国語を勉強されている皆さんは、これから思いもよらぬ沢山の良い出会いが待っているはずです。このエッセイがモチベーションになったら嬉しく思います。最後まで読んでくださり、ありがとうございました。